

大豆と小麦と塩水が お醤油になるまで

No. 9

お醤油を仕込んで1年の報告です。1年ですよ！面倒などとも見きれないと諦めてかかっているようなところもありましたが(糠床は何度その憂き目に会ったことか)くるくるかき混ぜ、愚痴をこぼしたり、謝ったり、泣いたりしているうちに一年！すごい！

寒い間、とんと見かけることの無かったフヨフヨくんですが先日久しぶりにご来訪。

「ふふ、待ってたで〜。こうしてやる〜」調子出てきた！この秋には「いただきます」だ！

今年のゴールデンウィークは楽しく過ごされましたか？

この時期、田舎では田んぼの用水路の点検をします。いざ田植えをしようとして用水路に不備があった場合、自分の田んぼにだけ水が入らない！などという事態が起こったら最悪。今も昔も水は平等にきっちり時間を決めて水を引き込みます。そうでないと、川上の田んぼだけが生育旺盛とすることが起こりますから。ですから、その時間を逃してしまうと次に水の順番が回ってくるまで待っていなければいけないんです。

さて、用水路の点検です。勿論、用水路の掃除をするために一度水を抜くのです。大人たちは掃除や補強で大忙しですが子どもたちは用水路を見下ろして遊ぶ気満々。だんだんと減っていく水位にニヤニヤ。いよいよ膝丈を下回ると誰からとも無く川へと降りていきます。

水路の底には水草も生えているのでにゆるにゆるドロドロ…

遊びの達人の地元っ子とは違って「う、へ〜〜」と妙な声を上げながら、ゆっくりといとこ達に置いて行かれまいと必死についていきます。

その時！！私の足のくるぶしにドカンとぶつかって通り過ぎていく謎の物体が…。余りの恐怖に悲鳴も上げられずそのまま尻餅をついてしまった私に気がついて振り返った子どもたちは、転んだ私には「大丈夫か？」とさらりと声を掛けただけで、視線は水位が下がるにつれて姿が露になった私にぶつかり泥だらけにした無礼者に釘付け。

それは、この用水路の主かもしれないと思うくらいの大物の鯉。

黒々とした巨体が腹を擦り、それでも敏捷に泥水を跳ね上げて子どもたちの間をすり抜けて行くので、子どもたちは見る見る鯉と同じ色に染まり、凄惨な歓声を上げながら鯉を追います。

しかし敵もさるもの、虫取り網にかかりながらもそれを折り、網を破り逃走！！(逃泳?)悪戦苦闘の末、子どもの中でも年長のお兄ちゃんが「やった〜！」と両手で掲げ、用水路脇の道路に放り上げました。焼けたアスファルトの上で、口をパクパクさせてバタバタと勢い良く身を跳ねる鯉の勢いに、私は「死」を感じて、恐怖におののいていました。

しかし、お兄ちゃんはお機嫌で「よっしゃ〜こいつ、食えるぞ！」の聲に私はパニック状態に。食う？鯉が食べられることは知識として知ってはいましたが「コレ」を食べる？と聞かれれば…「止めとく」と答えるしかない状態の私にはショッキングな出来事でした。

夕方、私たちのひどい有様を見たおじいちゃんは大笑い。おばあちゃんは子どもたち4人を服ごとお風呂場に押し込んで「きれいにしてから洗濯機に入れなさいよ」と大笑い。

従兄弟と妹と子どもたち4人は、裸んぼで自分達の黒い服を前に途方に暮れていましたが、洗え、と言うことですから、とりあえず石鹸を順に回し、服にこすり付けていきます。

暫くそれを繰り返しているとなかなか好感触の泡が立ってきたのに気を良くして、とうとう足で洗濯物を踏みつけ始めると、歓声も一段と大きくなり、また大変なことに…。黒々とした水しぶきがそこら中のタイルに飛び散り、誰かの足に引っかかって宙に舞った洗濯物が浴槽の中にちゃっぷん。

「…」4人急に黙り込みます。しまった～。そのとき初めて辺りを見回し、惨状としか言い様のない状況に気付くわけです。白いお風呂場が泥だらけ～～。

「やばい?」「ばれるじゃろ。お湯、黒いが」「…」

顔を見合わせて子どもたちの取った行動は…誰からとも無く、自分の泡だらけの服を浴槽に入れたのです。「洗濯機じゃ～」と腕を浴槽に突っ込んでかき回すのは、従兄弟の兄弟の担当。私たち姉妹は、浴槽から適当に一枚服を引っ張り上げて、浴室のタイルを拭き、服が汚れたら浴槽に放り込み、別のも一枚を引っ張り上げてまたタイルを拭くのです。

浴室は、ピカピカ(だと当時は思った)浴槽は黒々。

勿論、賢い子どもたちは洗濯物を足で踏みつけて絞り、洗濯機に放り込むと、一度お湯を抜き浴槽の掃除をして、お湯が張るまで大声で歌い、踊ります。そうして自分達を磨き上げて済むと気持ちのいい服に着替えて、何食わぬ顔で夕飯をせがみます。本人達は、洗濯もして自分たちもぴかぴかですし、頼まれもしていない浴槽、浴室の掃除までしたのですから、当然何の引け目も無く上機嫌でした。

が！数年後。いい年の「お嬢さん」になった私に真実が暴かれたのです。

おばあちゃん曰く、

「浴槽はじゃりじゃりいうし、風呂場はいつまでも生臭いし、脱衣場はびしょになっとうろ？数日わたしゃ、よーよー(よくよく)働いたんよ」

お上品にお茶などすすっていた私も苦笑い。妹は肘で小突いてくるし、後で聞くと従兄弟はおばさんに後でこってり絞られたそうな…。(暫く、お風呂掃除をしていたとか)

何だかこの時期、少し水の残る溝や用水路を見下ろしてつい考えてしまうのです。

生臭いお風呂場で、孫達のでかした大冒険の「その後」をきっと、何度も笑って思い返してくれたおじいちゃん、おばあちゃんの優しさと、あの鯉の行く末を…。

皆様のお醤油くんはご機嫌にされていますか？

(都市生活 HP 掲載)